

# 保育士養成課程所属学生の資質能力向上に関する一考察 — 幼児のハサミ使用技能に関する学生の認識 —

A Study on improvement of the capacity ability of students affiliated  
with nursery teacher training course:  
Student's perception of infant's scissors skill

大 西 洋 史\*  
Hiroshi OHNISHI

## Abstract

In this research, we focused on "scissors" among the tools used in the modeling activities in early childhood, and clarified how to be treated in students of early-childhood education. In addition, we compare the previous studies on the use skill of the scissors with the survey results of the student's perception concerning the use of scissors, and confirmed the mismatch of the student's recognition. Since, 50% the students are erroneously recognizing, we got suggestions on how to train the following nursery teacher. Before going to be assigned practical training at a hursery school and a kindergarten, there is necessity to the review of items of nursery practice notes on materials and tools and repeatedly confirm in the lecture about development of technical skills.

キーワード：乳幼児, ハサミの使用技能, 学生の発達認識, 形を切り抜く能力

## I はじめに

幼児が造形活動している場面といえば、パスや色鉛筆で絵を描いている、色紙を折っている、糊で貼り付けている、ハサミで切っているなどが思い浮かぶだろう。そういった造形活動をする際の用具として、乳幼児が初めて出会う道具がハサミと考えられる。最も身近で、使い慣れれば扱いやすい用具であろう。そのような道具であるハサミを幼児が使って造形活動する際に、どのような関わりが保育者には必要なのであろうか。また、保育士・教員養成課程に所属する学生にもハサミを使った幼児期の造形活動についてどのような認識を持たせることが必要なのであろうか。

本研究では、幼児期における造形活動で使用される道具の中で、特に「ハサミ」に焦点を当てて指導要領などでの扱われ方を明らかにする。また、ハサミの使用技能に関する先行研究と学生

---

\* 関西国際大学教育学部

のハサミ使用に関する認識について比較し、保育士養成の在り方についての示唆を得ることを目的としている。

## Ⅱ 保育所保育指針などでのハサミの取り扱いの規定

幼児がハサミを使うということを指導上の指針となる保育所保育指針・幼稚園教育要領では、どのように取り扱われているのであろうか。技能の習得などに関連した個所を抽出し確認する。

### 1. 保育所保育指針での扱い

平成20年改訂の保育所保育指針の中では、「第2章 子どもの発達」の「2. 発達過程」の「(6) おおむね4歳【全身のバランス】」のところ<sup>1)</sup>でハサミについて次のように記述されている。

手先も器用になり、ひもを通したり結んだり、はさみを扱えるようになります。また、遊びながら声をかけるなど、異なる二つの行動を同時に行えるようになります。

また、「(7) おおむね5歳」のところでは、次のような記述<sup>2)</sup>となっている。

手先の器用さが増し、小さなものをつまむ、紐を結ぶ、雑巾を絞るといった動作もできるようになり、大人の援助により、のこぎりなど様々な用具を扱えるようになります。

さらに、「(8) おおむね6歳」のところでは、次のような記述<sup>3)</sup>となっている。

同時に細かな手の動きが一段と進み、自分のイメージしたように描いたり、ダイナミックな表現とともに細やかな製作をするなど、様々な方法で様々な材料や用具を用いて工夫して表現することを乐しみます。

その上で、「第3章 保育の内容」の「1. 保育のねらい及び内容」の「(2) 教育に関わるねらい及び内容」の中の「オ 表現」のところ<sup>4)</sup>で次のような記述となっている。

#### (イ) 内容

⑦いろいろな素材や用具に親しみ、工夫して遊ぶ。

子どもが自分で素材や用具を選んで使えるようにしたり、季節感のある自然物の素材を用意しておくことも大切です。子ども達は様々な素材の適切な使い方を、試行錯誤を繰り返しながら学んでいくので、その様子を見守りながら、適切に援助したり、ヒントを与えたりすることも必要です。

これらの内容からは、幼児の発達から考えるとおおむね4歳ごろからハサミを使用する造形活動を保育に取り入れることが求められていることが分かる。

### 2. 幼稚園教育要領での扱い

平成20年度版幼稚園教育要領ではどのようにハサミを取り扱うように規定されているのであろう。幼稚園教育要領には、「ハサミ」という文言そのものが記述されている箇所はない。しかし、「第2章 ねらい及び内容」の「表現 2 内容」のところで次のように示されている<sup>5)</sup>。

(5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。

(7) かいたり、つくったりすることを楽しみ遊びに使ったり、飾ったりなどする。

そして、「表現 3 内容の取扱い」のところに次のよう<sup>6)</sup>に示し保育者に道具の使用を促している。

(3) 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、他の幼児の表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。

この項目は、平成26年度より施行された幼保連携型認定こども園教育・保育要領でも同じように示されている。

### Ⅲ ハサミで形を切り抜く能力に関する学生の認識

幼児のハサミ技能に関する認識について学生を対象に調査した研究は見受けられなかった。そのためこの項では、ハサミで形を切り抜くことができるようになる年齢についての先行研究を概観していく。そして、保育士・教員養成課程に所属する学生がその年齢についてどのような認識をもっているか調査した結果を先行研究と比較し、保育士養成の在り方について考察する。

#### 1. ハサミで形を切り抜くことに関連する先行研究

乳幼児の発達を測定する検査方法の中にハサミについて発達指標が盛り込まれていることがある。

例えば、「Peabody 発達運動尺度」<sup>7)</sup>では次のような評価項目がある。ハサミの技能評価に関して、①一回ごとに切る(18～23か月)、②紙を切る(30～35か月)、③線に沿って切る(36～41か月)、④円を切る(42～47か月)、⑤四角を切る(48～57か月)と5段階に分けられている。

また、遠城寺式乳幼児分析発達検査法では、図1<sup>注1</sup>に示されているように33～36か月で「はさみを使って紙を切る」という項目が設けられている。

一方で、実際に乳幼児がハサミを使用する様子を観察したり紙を切らせたりした調査としては、秀森潤子(1971)の「幼児のはさみ使用の観察」<sup>8)</sup>がある。調査の結果として「直線を切ることは3歳児で20%、4歳児が87%になり、4歳児から狭い間隔を切ることも可能になる。」と報告している

また、森下孝夫ら(1999)の「ハサミで線や形を切る発達時期の調査」<sup>9)</sup>では、各種線や図形をどのぐらいの誤差で切ることができるか調べている。おおむね使用できるとされる誤差5mm幅以内が、直線は4歳6か月、折線・曲線・三角・四角・円が5歳6か月となっている。きちんと正確に使用できている誤差1mm以内となると、直線・折線・曲線が6歳6か月、三角・四角・円に至っては7歳6か月でもできないとされている(表1)。

これらの先行研究から考えると、ハサミで切るという行為自体は3歳児ぐらいから行えるようになるが、線などがおおむね切ることができるようになるのが4歳頃、三角などの形はおおむね5歳ぐらいと考えることができるであろう。

**「遠城寺式・乳幼児分析的発達検査」**

氏名			男	外来番号	
			女	外来番号	
4:8	生年月日	年 月 日生	診 断		
			スキップができる	紙飛行機を自分で折る	ひとり
4:4			ブランコに立ちのりしてこぐ	はずむボールをつかむ	指先を踏む
4:0			片足で数歩とぶ	紙を直線にそって切る	入浴後分て体
3:8			幅とび(両足をそろえて前にとぶ)	十字をかく	鼻をか
3:4			でんぐりがえしをする	ボタンをはめる	顔をひ
3:0			片足で2~3秒立つ	はさみを使って紙を切る	上着を
2:9			立ったままくるつと	はさみで○をかく	靴をひ

図1. 遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表

表1. 何歳になると何mmの誤差で各種の線と形が切れるか(森下)

年齢\幅	1mm幅	3mm幅以内	5mm幅以内	7mm幅以内	10mm幅以内
3:06~					直線
4:00~				直線	曲線
4:06~			直線	折線・曲線	折線・三角
5:00~					四角・円
5:06~		直線・折線・曲線	折線・曲線・三角・四角・円	三角・四角・円	
6:00~					
6:06~	直線・折線・曲線	四角			
7:00~					
7:06~		三角・円			

2. ハサミで形を切り抜く能力に対する学生の認識

保育士・教員養成課程に所属する学生が、乳幼児のハサミで形を切る技能についてどのような認識をしているか明らかにするために調査を行った。

(1) 調査の対象

保育士・教員養成課程に所属する2年次の学生(保育・教育実習は、終了していない) 86名

(2) 調査の方法

①調査日 2017年7月

②調査方法

「保育内容・表現 I」の講義後、10分程度を利用し森下らの調査項目を参考に作成した次のような質問紙(図2)を用いて回答を求めた<sup>注2)</sup>。

### ハサミ技能についてのアンケート

年齢	性別 男 女	観察実習・教育インターンシップの経験 あり なし
----	-----------	-----------------------------

どのぐらいの年齢でできるようになるか回答してください。  
当てはまるものに部分に○を付けてください。

① 直線を、大体切ることができる。(才)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

② 折れ線を、大体切ることができる。(才)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

③ 曲線を、大体切ることができる。(才)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

④ 三角を、大体切り取ることができる。(才)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

⑤ 四角を、大体切り取ることができる。(才)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

⑥ ○を、大体切り取ることができる。(才)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

このアンケートは強制ではなく、回答は各自の判断になります。  
また、回答の内容が成績に関係することはありません。  
アンケートから得られたデータは統計的に処理され、研究論文等での使用を予定しています。  
年齢や性別などの個人情報、個人の特定がされないよう厳密に管理し研究目的以外に使用することはありません。

ご協力ありがとうございました。

図2. ハサミの技能についてのアンケート用紙

(3) 調査の結果

①～⑥の回答を単純集計し、グラフ化した。表2では、回答者の人数を年齢別に集計したうえで回答者総数の占める割合を算出した。また、森下が示した表1で線種を切ることがおおむねできると判断している5mm幅以内の年齢の前後12か月を太線で囲んだ。そして、図3～8には①～⑥の人数分布をグラフで示した。これらの集計結果からは、次のようなことが分かる。

直線では、回答者の47.7%がおおむねできると判断できる年齢の前後12か月歳を選択している。また、折線では38.4%、曲線では50%、三角形では52.3%、四角形では57%、円形では54.6%となっている。グラフからは、直線と折れ線を切れるようになると学生が認識している平均がおおむね5歳、曲線・三角形・四角形を切ることについては、おおむね6歳、円形についてはおおむね6歳6か月という結果となった。

表2. ハサミ技能についてのアンケート結果

年齢	直線		折線		曲線		三角形		四角形		円形	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
1.5	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2.5	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3	18	20.9%	7	8.1%	3	3.5%	1	1.2%	1	1.2%	0	0.0%
3.5	0	0.0%	3	3.5%	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
4	22	25.6%	24	27.9%	10	11.6%	9	10.5%	11	12.8%	4	4.7%
4.5	2	2.3%	0	0.0%	2	2.3%	2	2.3%	3	3.5%	0	0.0%
5	17	19.8%	22	25.6%	27	31.4%	26	30.2%	21	24.4%	21	24.4%
5.5	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	4.7%	4	4.7%	3	3.5%
6	11	12.8%	10	11.6%	14	16.3%	13	15.1%	21	24.4%	23	26.7%
6.5	1	1.2%	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7	7	8.1%	9	10.5%	13	15.1%	18	20.9%	13	15.1%	13	15.1%
7.5	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
8	3	3.5%	2	2.3%	10	11.6%	4	4.7%	3	3.5%	10	11.6%
8.5	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
9	2	2.3%	5	5.8%	4	4.7%	4	4.7%	7	8.1%	9	10.5%
9.5	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10	2	2.3%	3	3.5%	3	3.5%	3	3.5%	2	2.3%	3	3.5%

① 直線 (平均：4.90歳)

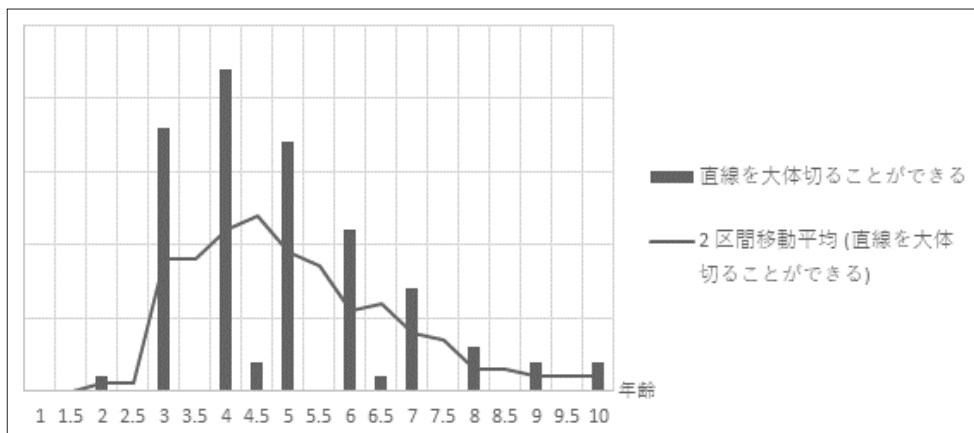


図3. 「直線」の集計結果

② 折線 (平均：5.32歳)

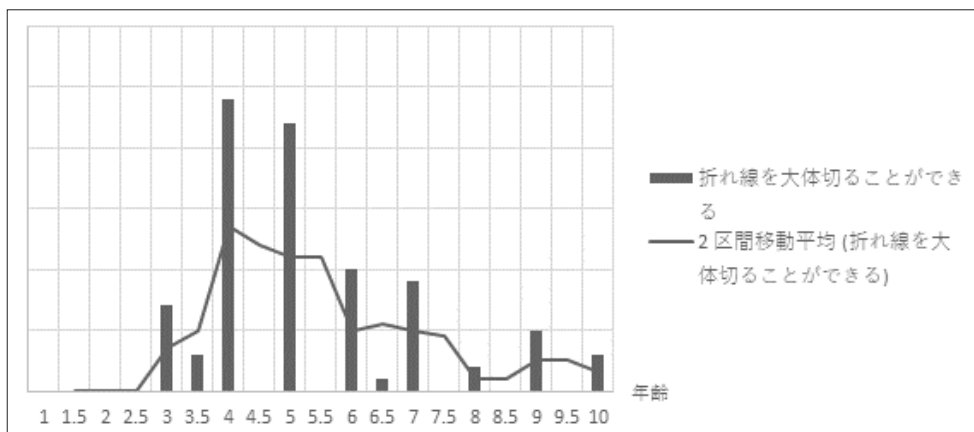


図4. 「折線」の集計結果

③ 曲線 (平均：5.97歳)

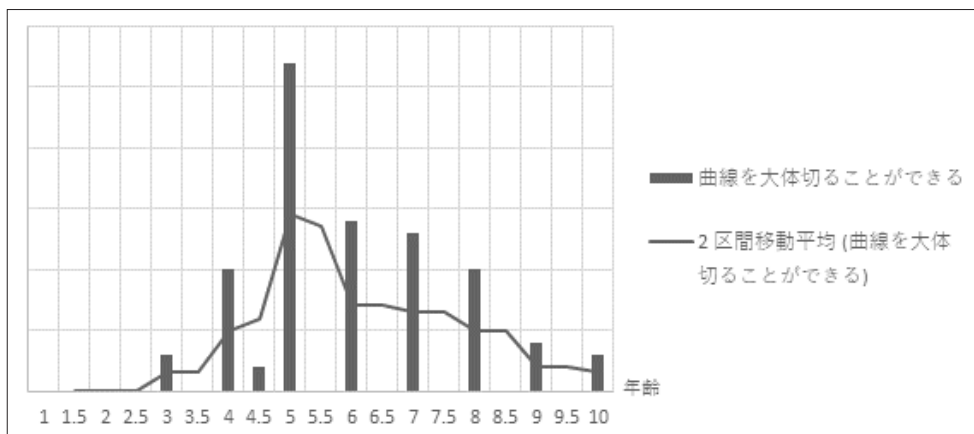


図5. 「曲線」の集計結果

④ 三角形 (平均：5：96歳)

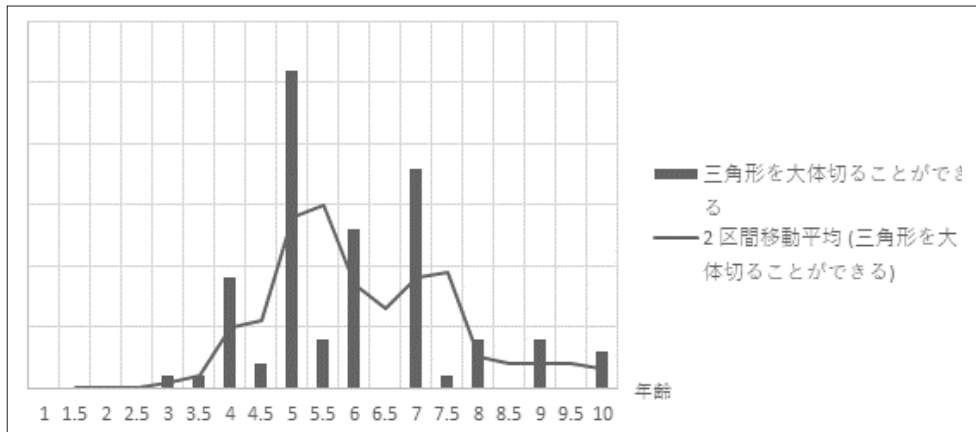


図6. 「三角形」の集計結果

⑤ 四角形 (平均：5.94歳)

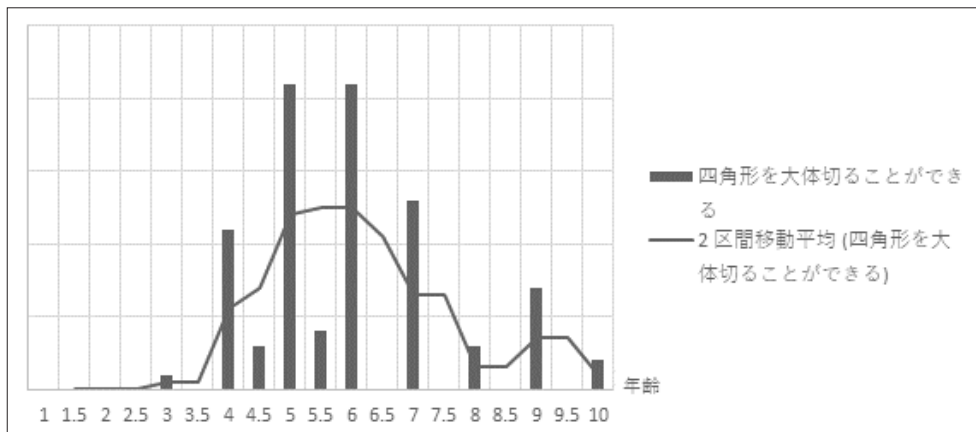


図7. 「四角形」の集計結果

⑥ 円形 (平均：6：48歳)

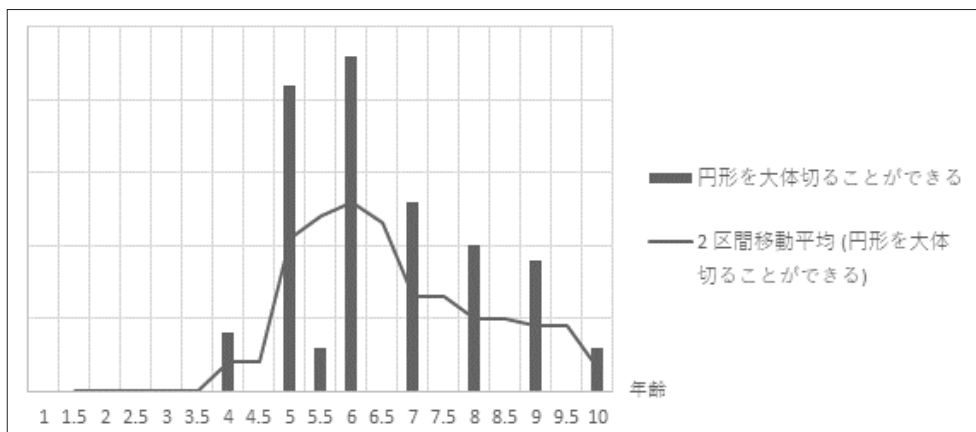


図8. 「円形」の集計結果



#### (4) 調査結果の考察

この調査の結果からは、学生が乳幼児のハサミを使用する技能について、次のように認識していることが分かった。

- ア 直線・折線を切ることについては、おおむね5歳ぐらいで切れるようになると認識している。
- イ 曲線・三角形・四角形を切ることについては、おおむね6歳ぐらいでできるようになると認識している。
- ウ 円形については、おおむね6歳6か月ぐらいで切ることができるようになると認識している。

この結果を森下らの研究と比較すると、直線・折線については正確に時期を認識しているが、曲線は少し遅い時期にできるようになると認識している。また、三角形・四角形・円形については少し早い時期にできるようになると認識していると言える。

これらの結果からは、先行研究などの知見とは大きくずれていないように見える。しかし表2に示したアンケート結果には、ハサミで切り抜くことができる年齢の集計で平均から1歳以上はずれた認識をもっている学生が、直線では52.3%、折線では61.2%、曲線では50%、三角形では47.7%、四角形では43%、円形では45.4%いる。約半数の学生が、乳幼児がハサミを使う年齢について誤った認識をもっているということになる。

保育実習や教育実習を終えていないとはいえ、86名中82名が観察実習や教育インターンシップなどで教育現場を体験しているにも関わらず、子ども達がハサミを使う姿をイメージできていない学生が多いと言える。

上記の結果を踏まえ、保育実習や教育実習に行くまでに学生達が正しい認識をもてるようにするために、次のようなことが考えられる。

第1に、大学での造形関係の講義の中で、乳幼児の用具の使用に関する発達についての内容を繰り返し取り入れていく。本学では卒業までに造形関係の授業が6科目設定されているので、その講義の中で取り上げるようにすれば正しい認識ができるようになる。

第2に、保育実習や教育実習の際に使用している実習ノートの項目に用具や材料について記入する項目を設けることも有効であろう。乳幼児が実際に用具を使っている様子を観察し、その結果を記録することで、ハサミなどを使用する年齢についての認識がより具体的にできるであろう。

## IV おわりに

この研究では、幼児期における造形活動で使用される道具の中でも、「ハサミ」に焦点を当てて指導要領などでの扱われ方を明らかにした。また、乳幼児のハサミの使用技能に関する先行研究と学生の認識について比較し、保育士養成の在り方について前述したような示唆を得た。

しかし、2年次の学生への調査だけにとどまっているため、保育実習や教育実習を終えた後で認識が変化しているかどうか、また、その変化の要因にまでは踏み込めていない。今後、前項で得られたような示唆が有効であったかどうか確認するためにも、調査対象を広げたり認識の変化要因について調べたりする必要がある。

さらに、ハサミ以外の用具や材料の使用についても学生の認識を調査したい。乳幼児が造形活

動をする際に使うその他様々な用具や材料にも、使用する適切な年齢・発達段階があるはずである。それぞれについて調査することで造形活動における適切な支援や配慮が明らかとなり、保育士・教員養成にとってより重要な示唆を得ることができるであろう。

【注】

- 注1 九州大学医学部小児科改訂版, 新潟県医師会が作成している『乳幼児健康診査の手引き 改訂第5版』より抜粋 ○は筆者による
- 注2 この調査は、関西国際大学研究倫理規定に則り、匿名での回答を求めたうえで成績等には影響しないことを明示し自由回答とした。また、関西国際大学研究倫理委員会での審査を受け承認を得ている。(研倫委審第H29-21-01号)

【引用文献】

- 1) 『保育所保育指針』厚生労働省, p41, 2008年.
- 2) 同上, p44.
- 3) 同上, p46.
- 4) 同上, p94.
- 5) 『幼稚園教育要領』文部科学省, p9, 2008年.
- 6) 同上, p9.
- 7) Folio, R. and Fewell R. Peabody developmental motor scales and activity cards. Allen, TX:DLM teaching resources. 1987.
- 8) 秀森潤子「幼児のはさみ使用の観察」幼児の教育 Vol.70 no.11, 日本幼稚園協会, pp56-63, 1971.
- 9) 森下孝夫, 伊藤信寿, 田端幸枝, 近藤敏, 吉川ひろみ, 宮口英樹「ハサミで線や形を切る発達時期の調査」広島県立保健福祉短期大学紀要 4 (2), pp37-45, 1999.

【参考文献】

- ・橋口英俊『新・児童心理学講座 第3巻 身体と運動機能の発達』金子書房, 1992年.
- ・津守誠『乳幼児精神発達診断法 3歳～7歳まで』大日本図書, 1965.
- ・牛島義友「社会的生活能力検査」『教育心理学研究』第1集, 巖松堂, 1949.
- ・森下孝夫, 伊藤信寿, 田端幸枝, 近藤敏, 吉川ひろみ, 宮口英樹「ハサミで線や形を切る発達時期の調査」広島県立保健福祉短期大学紀要 4 (2), 広島県立保健福祉短期大学紀要委員会, 1999.
- ・山村雅宏「「実技」ハサミで形を切り抜く能力」『幼児・児童における未来型能力育成システムならびに指導者教育システムの開発』東京未来大学科学研究費補助金研究成果報告, [http://www.tokymirai.ac.jp/research\\_report/essay/index.html](http://www.tokymirai.ac.jp/research_report/essay/index.html)
- ・秀森潤子「幼児のはさみ使用の観察」幼児の教育 Vol.70 no.11, 日本幼稚園協会, 1971.